

# 第4・5学年複式 国語科学習指導案

日時 平成27年10月1日(木) 5校時

児童 第4学年 男5名 女2名 計7名

第5学年 男1名 女7名 計8名

指導者 教諭 高橋 明 菜

講師 洞口 信太郎

講師 岩脇 由 佳

## 【第4学年】

### 1 単元名

お話パンフレットで物語のよさをしょうかいしよう  
「ごんぎつね」(東京書籍4年 下)

### 2 目標

○教材文に興味を持って読むことができる。

(国語への関心・意欲・態度)

○場面の移り変わりに注意しながら、人物の様子  
や気持ちを思い浮かべて読むことができる。

(読むこと ウ)

○表現したり理解したりするために必要な語句  
を増やし、活用することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 単元について

#### (1) 児童について

これまでの学習で、登場人物の気持ちが表れているところにサイドラインを引きその部分の気持ちを想像して書き込んだり、登場人物になりきって吹き出しに気持ちを想像して書き込んだりして、登場人物の気持ちを読み取るという学習を行ってきた。それにより、叙述をもとに気持ちを読み取るということに慣れ、物語文の読解への苦手意識が少しずつ緩和されて積極的な発言が見られるようになってきた。また、友達の意見を聞いて、その意見と自分の意見を比べながら発表することを意図的に練習させたことで、友達の発言を自分の発言に結びつけるということも少しずつできるようになってきている。しかし、情景描写と心情の変化に気づきながら読むことのできる児童は少数である。

そこで本単元では、登場人物の心情の変化を、情景描写と関係づけて読み取る力を育てたい。

## 【第5学年】

### 1 単元名

宮沢賢治の作品の解説書を作ろう  
「注文の多い料理店」(東京書籍5年 下)

### 2 目標

○教材文に興味を持って読むことができる。

(国語への関心・意欲・態度)

○表現の工夫を見つけながら読むことができる

(読むこと ウ)

○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 単元について

#### (1) 児童について

これまでの学習で、物語の山場を見つけたり山場で登場人物の何が変わったかを考えたりして、物語の展開と登場人物の気持ちとのかかわりを考える学習を行ってきた。それにより、物語全体を概観して読むという方法に慣れ、気持ちを考えるときには叙述に立ち返る習慣も付いている。また、友達の意見を聞いて、その意見と自分の意見を比べながら発表することを意図的に練習させたことで、友達の発言を自分の発言に結びつけるということも少しずつできるようになってきている。しかし、物語のよさを表現の工夫という観点で見つけるという経験はない。

そこで本単元では、物語のおもしろさや魅力を表現の工夫という観点で読み取る力を育てたい。

(2) 位置づけた言語活動について

本単元では、「C 読むこと」の(1)「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」を重点指導事項とする。そのために、言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明する事。」を具体化し、「お話パンフレットで物語のよさをしょうかいしよう」を言語活動として設定した。

(3) 今年度の研究と関わる手立て「根拠をもとに考えを表現できる子ども」を育てる  
手立てⅠ 付けたい力を明確にした言語活動の具現化を図る

【本単元で身につけさせたい力】

C 読むこと:

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

【設定した言語活動及びその特徴】

言語活動: お話パンフレットで物語のよさをしょうかいしよう(言語活動例 エ)

特徴: 「お話パンフレット」には、①話のあらすじをつかむこと②登場人物の心情の変化と変化の理由を読み取ること③お話のよさやおもしろさを自分なりにとらえることを位置付ける。

相手: 3年生の児童

目的: 「お話パンフレット」を書くことで、情景描写と登場人物の気持ちとをかわらせて考えられるようになる。

児童の思い: 下の学年の友達に、「おもしろそうだから読んでみたい」と思ってもらいたい。

能力: ・本を選ぶ力

・物語全体の話の流れを場面を意識してとらえる力

・登場人物の気持ちの変化をとらえる力

・登場人物の心情と情景描写とをかわらせてとらえる力

手立てⅡ 自分の思いや考えをつむぎ合う活動の充実を目指す

毎時間の「深める」の段階で、課題に即した自分の考えを交流させる。その際に、今読み取っていることが「物語のよさ」とどう結びつく

(2) 位置づけた言語活動について

本単元では、「C 読むこと」の(1)「ウ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」を重点指導事項とする。そのために、言語活動例「エ 本を読んで推薦文を書くこと。」を具体化し、「宮沢賢治の作品の解説書を作ろう」を言語活動として設定した。

(3) 今年度の研究と関わる手立て「根拠をもとに考えを表現できる子ども」を育てる  
手立てⅠ 付けたい力を明確にした言語活動の具現化を図る

【本単元で身につけさせたい力】

C 読むこと:

ウ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

【設定した言語活動及びその特徴】

言語活動: 宮沢賢治の作品の解説書を作ろう(言語活動例 エ)

特徴: 「解説書」には、①表現の工夫に気を付けながら読むこと ②表現の工夫と作品のよさやおもしろさを関連付けて読むこと を位置付ける。

相手: 6年生の児童

目的: 解説書を書くことで、表現の効果が物語の魅力につながることを理解できるようになる。

児童の思い: 上の学年の先輩に、「宮沢賢治の表現の工夫をよく理解してまとめている」と思ってもらいたい。

能力: ・本を選ぶ力

・物語全体の話の流れを場面を意識してとらえる力

・登場人物の心情と表現技法とをかわらせてとらえる力

手立てⅡ 自分の思いや考えをつむぎ合う活動の充実を目指す

毎時間の「深める」の段階で、叙述から表現の工夫を見つけた後にその効果をみんなで話し合わせる。その際に、その表現がもたらす効果

のかという観点で話し合わせることで、自分の考えをより深めさせたり、新たな考えに出会わせたりすることができると考える。

はどんなものかを意見交流させ、友達の考えと聞き比べさせることで、自分の考えをより深めさせたり新たな考えに出会わせたりすることができると考える。

#### 4 単元の評価規準

- お話パンフレットを書くことに興味を持って作品を読もうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、ごんや兵十の気持ちの変化を想像して読んでいる。  
(読む能力 ウ)
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、活用している。  
(言語についての知識・理解・技能)

#### 4 単元の評価規準

- 宮沢賢治作品の解説書を書くことに興味を持ち、表現の工夫に気を付けながら読もうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 表現の工夫を見つけながら読み、それが作品の魅力につながることをとらえている。  
(読む能力 ウ)
- 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。  
(言語についての知識・理解・技能)

#### 5 単元の指導構想 (12時間 本時6 / 12)

過程		学習活動	具体的評価規準	指導にあたって
見 通 す	1 }	○目的を設定する。 ・お話パンフレットを作 て3年生に読んでもら うことを知る。	<u>関</u> パンフレットを作ることに関 心を持ち、楽しんで読もうと している。	・既習の物語文(手ぶくろを買 いに)でモデルを示すことで、 作品のよさを伝えるパンフレ ットのイメージを持たせる。
	2	○お話パンフレットのモデ ルを分析する。 ・パンフレットの構成要素 を確かめる(あらすじ、 情景描写の効果、ごんの 気持ちの変化、おすす めの言葉)。 ・行動や会話、情景描写に 着目して登場人物の気持 ちを読み取り、作品のよ さをパンフレットにまと めていくことを知る。 ○お話しょうかいパンフレ ットを書くための学習計 画を立てる。	<u>関</u> パンフレットがどんな内容な のか知ろうとしている。	・構成要素は、作品のよさを伝 えるためのものであること、 よさを伝えるためには登場人 物の気持ちを読み取らなけれ ばならないことを確かめさせ る。  ・独自のお話しょうかいパンフ レットを書くために「ごんぎ つね」で練習してみるという 意識を持たせる。
確 か め る	3 }  1 0	○「ごんぎつね」を、とき ・場所・登場人物に着目 して場面を六つに分ける。	<u>読</u> とき・場所・登場人物を根拠 として場面を分けている。	・示されている数字からではな く、とき・場所・登場人物を 根拠に場面を認識させるよう にする。

・ 深 め る		○教材文全体を読みあらすじをとらえ、パンフレットにまとめる。 ○選んだ本のあらすじをとらえ、パンフレットにまとめる。	<b>読</b> 場面ごとに登場人物の行動を中心に出来事を読み取っている。 <b>言</b> パンフレットを書くために、必要に応じて国語辞典を活用している。	・場面ごとに起きた出来事確かめ、最後にあらすじとして文章化する。
		○教材文の情景描写について考え、パンフレットにまとめる。 <b>(本時)</b> ○選んだ本の情景描写について考え、パンフレットにまとめる。	<b>読</b> 登場人物の心情にかかわる情景描写を見つけ、その描写は登場人物のどんな気持ちを表しているのか読み取っている。 <b>言</b> パンフレットを書くために、必要に応じて国語辞典を活用している。	・物語文において、情景描写は登場人物の気持ちに大きくかかわることを教え、登場人物の気持ちにかかわる情景描写を考え、パンフレットにまとめさせる。
		○教材文の主人公の気持ちの変化を読み取り、パンフレットにまとめる。 ○選んだ本の主人公の気持ちの変化を読み取り、パンフレットにまとめる。	<b>読</b> 登場人物の心情の変化を、会話・行動・情景描写を手がかりに読み取っている。 <b>言</b> パンフレットを書くために、必要に応じて国語辞典を活用している。	・ごんの気持ちの変化について「いつ、なぜ、どのように、」変化したのか考えさせ、この3つの要素を入れて書くという条件で気持ちの変化についてパンフレットにまとめさせる。
		○教材文に対する自分のおすすめの言葉と、選んだ本のおすすめの言葉をパンフレットにまとめる。	<b>読</b> 「ごんぎつね」のよさやおもしろさを明確にしておすすめという言葉を書いている。 <b>言</b> パンフレットを書くために、必要に応じて国語辞典を活用している。	・自分がどうしてその作品をよいと思うのかはっきりさせておすすめという言葉を書かせる。
広 げ る	1 1	○グループで出来上がったパンフレットを読みあい、感想を交流する。	<b>関</b> 自分の思いを伝えようとしたり、友達の思いを理解しようとしたりしている。	・友達のお話パンフレットの内容を注意深く聞き、自分なりの感想を持たせるようにす
	1 2	○3年生に「お話パンフレット」を発表する。		

## 5 単元の指導構想（1 1時間 本時6 / 1 1）

過程		学習活動	具体的評価規準	指導にあたって
見 通 す	1 2	○目的を設定する。 ・宮沢賢治の作品の解説書を作って、6年生に読んでもらうことを知る。	<b>関</b> 解説書を作ることに関心を持ち、楽しんで読もうとしている。	・宮沢賢治の作品（なめとこ山の熊）でモデルを示すことで、解説書のイメージを持たせる。
		○解説書のモデルを分析する。 ・解説書の構成要素を確かめる（様子を表す言葉、	<b>関</b> 解説書がどんな内容なのか知ろうとしている。	・構成要素は、作品のよさを伝えるためのものであること、よさを伝えるためには表現の工夫を考えなければならない

		色，物語のしかけ）。 ・表現の工夫に着目して作品のよさを解説書にまとめていくことを知る。 ○解説書を書くための学習計画を立てる。		ことを確かめさせる。  ・独自の解説書を書くために「注文の多い料理店」で練習してみるという意識を持たせる。
確 か め る ・ 深 め る	3 〜 9	○とき，場所，登場人物， 何かが変化していないかに着目して場面を六つに分ける。	<b>読</b> とき・場所・登場人物を根拠として場面を分けることができる。	・とき・場所・登場人物を根拠に場面を認識させるようにする。
		○教材文全体を読み，様子を表す言葉を使った表現について解説書にまとめる。 ○選んだ本の様子を表す言葉を使った表現について解説書にまとめる。 <b>(本時)</b>	<b>読</b> 様子を表す言葉を使った表現を見つけながら読んでいる。 <b>言</b> 比喩や反復などの表現がどんな役割をしているかに気付いている。	・様子を表す言葉見つけるのが目的にならないよう，その言葉が何かの役割を果たしていたり，何らかの効果をもたらしていたりするのだということを理解させる。
		○教材文の色を使った表現について考え，解説書にまとめる。 ○選んだ本の色を使った表現について考え，解説書にまとめる。	<b>読</b> 色を使った表現を見つけながら読んでいる。 <b>言</b> 比喩や反復などの表現がどんな役割をしているかに気付いている。	・色を見つけるのが目的にならないように，色が何かの役割を果たしていたり，何らかの効果をもたらしていたりするのだということを理解させる。
		○教材文の物語のしかけについて考え，解説書にまとめる。 ○選んだ本の物語のしかけについて考え，解説書にまとめる。	<b>読</b> 物語のしかけを見つけながら読んでいる。 <b>言</b> 比喩や反復などの表現がどんな役割をしているかに気付いている。	・物語のしかけについて気づかせるために，教材文を後ろから読み返して行きながら伏線を探っていさせる。
広 げ る	1 0	○グループで出来上がった解説書を読みあい，感想を交流する。	<b>関</b> 自分の思いを伝えようとしたり，友達の思いを理解しようとしたりしている。	・友達の解説書の内容を注意深く聞き，自分なりの感想を持たせるようにする。
	1 1	○6年生に「宮沢賢治の世界を解説しよう」を発表する。		

## 6 本時の指導

### (1) 目標

#### 4年

- ・情景描写の効果をごんの気持ちとかかわらせながら読み取ることができる。

#### 5年

・宮沢賢治作品の様子を表す言葉を使った表現の効果をとらえることができる。

(2) 展開

4 年				5 年			
支援 (○) 留意点 (・) 評価 (□) 研究主題とかかわるところ (◎)	学習活動	段階	形態	形態	段階	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価 (□) 研究主題とかかわるところ (◎)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時もしょうかいパンフレットの項目のひとつを完成させることを意識づける。 ※仮説 1</li> <li>・モデルと今日学習することとの対応を示し、本時の学習の意味づけをす</li> <li>・物語文において、情景描写は登場人物の気持ちと大きくかかわるということを「手ぶくろを買いに」で確かめさせる。</li> <li>・教師の話を集中して聞き、課題を書くよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を振り返る。</li> <li>2 本時の学習課題を <div> 情景を表す言葉は、ごんのどんな気持ちを表しているのだろうか。 </div> 確認する。</li> <li>・情景描写とは何かをしっかりとさえる。</li> <li>・「灯には、～」という情景描写から「わくわくした気持ち」が伝わってくるという具体例で理解する。</li> </ul>	つかむ 5			つかむ 10	1 前時までの学習を振り返りながら自分が選んだ宮沢賢治の作品を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した「様子を表す言葉を使った表現の効果」という観点で読ませる。※仮説 1</li> </ul>
○自分で考えられず困っている児童の支援をする。 □ごんの気持ちにかかわる情景描写を見つけ、そのときのごんの気持ちを読み取っている。	3 ごんの気持ちにかかわりそうな情景描写を探し、それがどんな効果をもたらしているのか考える。  ・サイドラインを引き、その部分の気持ちについて付箋に書き込む。	学ぶ 15				2 本時の学習課題を <div> 様子を表す言葉からどんなことが伝わってくるか考えよう。 </div> 確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した「注目の多い料理店」の色を使った表現について振り返らせ、様子を表す言葉そのものではなく「様子を表す言葉を使った表現の効果」に着目するのだということを確かめさせる。</li> </ul>
◎1つの意見が出たら、同じ人はいないか、似ている人はい	4 情景描写の効果について話し合う。	深める			学ぶ 15	3 自分が選んだ作品の「様子を表す言葉を使った表現の効果」につ	○自分で考えられず困っている児童に様子を表す言葉を探す

ないかなど、派生して意見がどんどんつながっていくよう発問・切り返しを工夫する。 ※仮説2，目指す児童像③⑤⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しだのいっぱいしげった森の中</li> <li>・ひがんばなが、赤いきれのようにさき続いていました。</li> <li>・月のいいばんでした。</li> <li>・青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。</li> </ul>	15		いて考える。	ように支援をする。
				深め 15 4 自分が考えた「様子を表す言葉を使った表現の効果」についてペアで話し合い考えを深める。	◎ペアでの話し合いを自分の考えを深めるための手立てとして有効に使わせる。 ※仮説2，目指す児童像⑤⑥
	5 学習したことをもとに、情景描写の効果についてごんぎつねのパンフレットにまとめる。  6 今日の学習で学んだことを振り返り交流する。  7 次時に独自のパンフレットに書きたい情景描写を意識しながら並行読書をする。  8 次時の学習内容を確認する。	ま と め る  10		ま と め る 5 5 自分が選んだ作品の「様子を表す言葉を使った表現の効果」について解説書にまとめる。	□並行読書している本から様子を表す言葉を使った表現を見つけ、その言葉が表している意味を自分なりに考えまとめることができる。
				6 今日の学習で学んだことを振り返り交流する。  7 次時に学習する「色を使った表現」に着目しながら「注文の多い料理店」を読む。  8 次時の学習内容を確認する。	

### (3) 本時の評価規準

4 年

目標（領域）	A 十分満足	B 概ね満足	C 支援の手立て
登場人物の気持ちにかかわる情景描写を見つけ、その効果について適切にパンフレットにまとめることができる。	ごんの気持ちを表している情景描写を見つけ、その情景描写はごんのどんな気持ちを表しているのか考え、自分の言葉で	ごんの気持ちを表している情景描写を見つけ、その情景描写はごんのどんな気持ちを表しているのか考えることができる。	情景描写とは何かを本文の具体例で説明し、その描写はごんのどんな気持ちを表しているのか考えさせる。

	パンフレットにまとめることができる。	
--	--------------------	--

5 年

目標（領域）	A 十分満足	B 概ね満足	C 支援の手立て
様子を表す言葉を使った表現を見つけ、その効果について適切に解説書にまとめることができる。	様子を表す言葉を使った表現を見つけ、その言葉がどんな意味を持つのか自分なりの意見を持つことができる。	様子を表す言葉を使った表現を見つけ、その言葉のイメージから場面の様子を想像することができる。	様子を表す言葉を使った表現を見つけさせ、その言葉にどんなイメージを持つか考えさせる。

（４）板書計画

4 年

ごんぎつね

情景を表す言葉は、ごんのどんな気持ちを表しているのだろうか。

お話パンフレットのモデル

情景を表す言葉は登場人物の気持ちを表している！

今日書くのはこの部分。  
情景描写が表すごんの気持ちを考えていこう。

・しだのいっぱいしげった森の中  
 ↓一人ぼっちでさみしい。  
 ・ひがながばなが、赤いきれのようにさき続いています。  
 ↓何があったのだろう。そわそわ。不安。  
 ・月のいいばんであいた。  
 ↓兵十に魚をあげていい気分。るるん。  
 ・青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。  
 ↓せっかく気持ちが通じたのになあ……。

5 年

注文の多い料理店

様子を表す言葉からどんなことが伝わってくるか考えよう。

解説書のモデル  
(やまなし・いちちょうの実)

解説書  
(注文の多い料理店)

今日書くのはこの部分。様子を表す言葉の効果を考えていこう。

様子を表す言葉を見つけるのではなく、それを使った表現の効果を見つける！

解説書  
(自分が選んだ作品)